

Mon Nara



Numéro277 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 SEPT—OCT 2016 9—10 月合併号

秋の教養講座 2016

—フランスワインの道程と奥深い魅力を探る—

11月23日(祝・水) [15時~] 放送大学奈良学習センターで開催

中浦 東洋司 (なかうら とよじ)

世界の果物生産量で、断然トップを走る果実はぶどうです。しかも、生産量の大部分は、生食ではなくてワインになるのです。コーカサスに原産地を有する葡萄はすでに二千年以前にはレバント地方(地中海東端の沿岸)に西漸して、しかもワインとなって交易されていました。紀元前にローマ帝国の下で地中海を通してガリア(現在のフランス本土他)に入ったのが今日のフランスワインの祖先です。

ローマ軍は、まず南仏のマルセイユ(旧名マッサリア)に上陸し、ローヌ川渓谷を北上しますが、沿線に密生する灌木林を葡萄の木に替えて行きました。これは、見通しを良くする軍事上の必要からでしたが、併せて現地に葡萄を広めてゆくことになります。北上の末たどり着いたのがブルゴーニュです。

別途、南仏から西南平野を経てボルドーへと伝播してゆきました。ここは、ガロンヌ川によって運ばれた砂地が卓越する最適の葡萄畑を形成していてフランス二大ワイン産地の一つとなりました。

シャンパーニュ地方はパリの北東に位置。ランスとエペルネという二大都市を抱え、特にランスは歴代フランス国王の戴冠式が行われた世界遺産の美しい大聖堂を有する歴史都市ですが、このあたりは北緯50度、年間平均気温10℃という冷涼な気候で赤葡萄の生育には適せず通常のワイン生産は僅少だったのです。その短所を克服して、発酵途中で糖分を加えることで発生する炭酸ガスを有効に利用することで独特の爽やかさを持つワインが発明されました。この発明者こそドン・ペリニオン氏(Dom Pérignon)で現在のモエ・エ・シャンドン社の創設者なのです。

今回はこれら現代の主たるワインとその産地について考察し、ワイン特有の用語「テロワール」(terroir)「セパージュ」(sépape)「A.O.C.」についても論じてみたく存じております。



ニーム郊外のブドウ園にて (2001年7月)

日時: 2016/11/23(祝・水)

1) 講演会 15:00~17:00(参加無料) 放送大学奈良学習センターZ308 講義室にて

2) 懇親会 17:20~19:00 頃(参加費: 会員 5,500 円、一般 6,000 円)

「ビストロ・プティ・パリ」にて、ワインと本格的フランス料理を賞味します。

主催: 奈良日仏協会、放送大学奈良学習センター

参加申込: メール nara.afj@gmail.com 他(詳しくは本号同封のチラシをご覧ください)



《法人会員のお店からの案内》

「菜宴」

同窓会、演奏会、各種宴会承ります。お一人様 3,500 円~飲み放題付プランが人気! 近鉄奈良駅前の立地でリーズナブルな宴会が可能!!!



ブッフェ形式、着席と色々なスタイルでお楽しみいただけます。詳しくはお問合せお待ちしております。
奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F
Tel: 0742-26-0835
不定休(久保田)

「ビストロ ルノール」

フレンチ御節料理の予約を受け付け中です! シェフが厳選した数々の食材をたっぷり使用し、贅沢な仕上がりとなります。限定数の為、お早めのご予約をおすすめします。早期予約特典(ボトルワイン一本)あり。4人前 2段重 税込 40,000 円。ご予約・お問い合わせはお電話にて。



生駒市松美台 33-2
ランドヒルパートIV
Tel: 0743-75-9555
水曜定休(北田)

「サン・ヴァンサン」

奈良市学園前のワイン専門店です。最高の状態で保存されたお取り扱いアイテムはブルゴーニュを中心に 3000 点以上。併設のワインバーではソムリエ厳選ワインとシェフのお料理、当店チーズプロフェッショナルが厳選したパリから空輸されたチーズをお楽しみいただけます。



奈良市学園朝日町 2-2
米田ビル 102
Tel: 0742-43-3832
月曜定休(竹中)

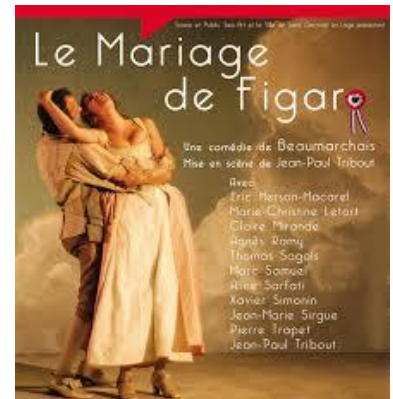
フランス文学の庭から <47> 名句の花束

三 野 博 司 (会長)

Tout finit par des chansons. (2)

ものみな歌で終わる

(ボーマルシェ『フィガロの結婚』 1780 年)



パリのコメディ・フランセーズの正面玄関に入ると、椅子に腰かけてほおづえをつくモリエールの全身像が目をつけます。その手前にはボーマルシェの像もありますが、こっちはずっと小ぶりの胸像です。この建物が建造されたのは1799年、ボーマルシェ死の年であり、『セビリアの理髪師』も『フィガロの結婚』も上演は別の場所でした。

『セビリアの理髪師』の筋立ては、古典的な喜劇の常套に従っています。中年の男が若い養女を育ててやがては妻にしようと虫の良い目論みを立てますが、結局は若い男があらわれて掌中の珠をさらっていくという話。モリエールも同じテーマで『女房学校』を書いています。これだけなら新味はないと言えますが、ただ従者として登場するフィガロに、身分は低いいけれども機転がきき、陽気で策略好きという基本的な性格が付与され、芝居を生き生きしたものになっています。

続篇の喜劇『フィガロの結婚』は、18世紀でもっとも成功した芝居です。こんどは主役として登場したフィガロが、縦横無尽に活躍します。彼の口から、当時の特権階級を攻撃するスローガンが発せられると、観客は喝采したといわれています。時代はすでにフランス革命前夜でした。なかでも第5幕第3場、フィガロが観客席に向かって発する長い独白は人口に膾炙されていますが、伯爵を批判する内容のその一部を引用しましょう。生まれの貴賤が一生を決定するという身分制度への批判が、痛快なせりふで語られます。

「あなたは自分が大貴族だから、うまれつきの才能もたっぷりあると思ってる！……爵位、財産、地位、いくつもの肩書き、全部揃って威張りくさっているんだ！でも、これだけのおいしい結果を手に入れるのに、あなたはいったい何をしたんです？ 生れるという骨を折っただけ、後は何もしてないじゃないか。Qu'avez-vous fait pour tant de biens! Vous vous êtes donné la peine de naître, et rien de plus.」(鈴木康司訳)

ル・フィガロ (Le Figaro) は、フランスの日刊紙の名前にもなっています。1826年創刊、現在もなお刊行されて、フランス国内では最も古い歴史を持ちます。政治的色分けとしては保守中道といったところです。紙面では標題の下に次のことばを標語として掲げていますが、これは先にも紹介した第5幕第3場のフィガロの長台詞の中にあります。

« Sans la liberté de blâmer, il n'est point d'éloge flatteur. »

「譴責処分なんてものがなければ、お追従、おべっかもなくなるさ」

ところで、名句に掲げたのは、『フィガロの結婚』最後の句です。フィガロの「どうぞ皆様、私めに嬉しい喝采と名誉をくださいますよう」で大団円を迎えたあとに、音楽付きのヴォードヴィルが続きます。バジールが先導をつとめ、以下、シュザンヌ、フィガロと登場人物たちが順次口上を述べたあと、最後に登場したブリドワゾンが、次の句で締めくくります。

« Tout finit par des chansons. »

往年の辰野隆訳は「唄でおわるが世のならい」、小場瀬卓三訳は「歌でめでたし しめくくり」、最新の鈴木康司訳は「すべては歌でめでたしとなる」となっています。表題に掲げた「ものみな歌で終わる」は、ボーマルシェの芝居を愛した花田清輝の戯曲の題名です。1964年、日生劇場の柿落としのために書かれ、上演されました。「かぶきの誕生に関する一考察」の副題が示すように、佐渡島を舞台に出雲のおくにを描き、フィナーレは京都四条河原。「歌で終わる」というより、これから歌舞伎をはじめようとするところで幕が下ります。



フランス大使ご夫妻の“プライベートな”奈良訪問

会長 三野博司

7月18日、19日の2日間、ティエリー・ダナ（Thierry Dana）駐日フランス大使と、そのパートナーであるフロランス・ゴドフェルノ（Florence Godfernaux）さんが、奈良でプライベートな休日を過ごされました。来日以降の2年間に、京都、大阪、神戸は何度か訪問されましたが、奈良についてはその機会がなかったとのこと。そこで、直島での公式行事の帰路を利用して、未見の古都に立ち寄られたという次第です。

18日15時に、三野と野島副会長が、奈良ホテルにお二人を迎えに行きました。東大寺を見学しましたが、梅雨明け宣言が発せられ、暑い日となりました。野島さんなじみの万華鏡喫茶「しろあむ」で涼んだあと、18時にはホテルにもどって、お二人はシャワーを浴びて休憩されました。19時から「江戸川ならまち店」にて、浅井事務局長も加わって、5名の打ち解けた会食となりました。奈良日仏協会の活動についても、Mon Naraの最近号を見せて紹介し、十分理解していただいた様子でした。



翌19日、10時JR奈良駅で、三野と濱理事（元副会長兼事務局長）が大使夫妻を迎えて、法隆寺を見学しました。東大寺と異なり、観光客も少なく、7世紀から時が止まったかのような古寺のたたずまいを堪能された様子でした。門前の食堂で昼食後、JR奈良駅に戻り、京都を経て東京へ戻られるお二人を見送りました。

大使はパリ生まれで、名門の国立行政学院（ENA）出身で、在アルジェリア・フランス大使館に赴任されました。その後は、フランス外務省での勤務を長く続けられたあと、2014年、駐日大使として来日されました。夫人はコートジボワール生まれで、パリ第4大学で博士号取得、パリの出版社アルバン・ミシュル（Albin Michel）で10人の部下を従える才女ですが、東大寺では柱

の穴くぐりに挑戦（残念ながら成功せず）するなど、おちゃめな一面もあります。ともに快活でたいへん気さくなお二人でした。後日、大使通訳を務める三宅薫子さんから、「大使夫妻は、心底、奈良に魅了されて戻って参りました」との報告をいただきました。次の奈良訪問を期待したいと思います。ダナ大使からもたいへん丁寧なメッセージをいただきました。その一部を紹介します。

「先日は、急なお願いであったにも関わらず、奈良見物にお付き合いくださいまして、ありがとうございました。奈良への旅は、前々からの夢でしたが、このような形で実現し、日仏協会の会員各位とも親しく意見交換する機会に恵まれまして、至福の時でした。今回は駆け足でしたが、他の季節にもお邪魔したいと切に願っております。」

Avec mon amical souvenir,

駐日フランス大使
ティエリー・ダナ

Le temple Hôryûji 「法隆寺」

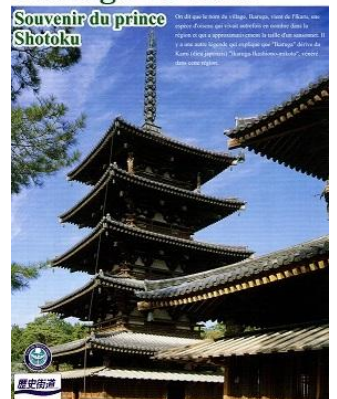
Le temple Hôryûji, construit par le prince Shôtoku il y a environ 1400 ans, est la plus vieille construction en bois du monde. C'est pourquoi il est devenu en 1993 le premier site japonais à être inscrit par l'Unesco au registre du Patrimoine de l'Humanité.

Ce temple est composé d'une part de l'Enceinte Ouest (Saiin Garan) qui comprend la Pagode à cinq niveaux (Gôjû-no-Tô) et le Bâtiment Principal (le Kondo) et d'autre part de l'Enceinte Est (Tôin Garan) organisée autour du Pavillon des Songes (Yumedono). Le Hôryûji contient beaucoup de structures architecturales et objets de la plus haute importance sur le plan culturel ou artistique.

法隆寺はおよそ1400年前に聖徳太子によって建てられた世界最古の木造建築です。そのために、1993年日本で最初のユネスコの世界遺産に登録されました。この寺には五重の塔や金堂のある西院伽藍と、夢殿を中心とする東院伽藍があります。法隆寺は、文化・芸術面においてきわめて重要な建築や宝物をたくさん有しています。

※上記の仏語訳は斑鳩町観光協会法隆寺iセンター(tel. 0745-74-6800) 発行の観光案内より転載させて頂きました。

Ikaruga no-Sato



ガイドクラブからのお知らせ 昨夏、猿沢池のほとりに、外国人観光客に奈良をよりよく知ってもらうための県の施設「奈良県猿沢イン」（奈良市池之町3）がオープンしました。館内には英語・中国語・フランス語などの観光パンフレット（無料）が置いてあります。仏語版はすべて揃っているわけではありませんが、「法隆寺」のものをはじめ、いくつか置いてあります。奈良の観光名所のフランス語訳に興味ある方は、「奈良県猿沢イン」（tel. 0742-81-7461）に問い合わせしてみてください。

第132回 フランス・アラカルト (9/5) 報告

今回のアラカルトは、生駒市のセイセイビル会議室にて、ベルギーにおける「仮面」(masque) と「カーニバル」(carnavale) について、ゲストのジャン＝ノエル・ポレさんからプロジェクターで画像を見せてもらいながら、お話を伺いました。ポレさんは、大阪のアンスティチュ・フランセはじめ、関西の諸大学でフランス語講師を務めるベルギー出身で吉野在住の奈良県民。そしてサッカー・ファンで、オリンピック・マルセイユとレッド・デビル supporterでもあるそうです。



カーニバルはアメリカやヨーロッパで、仮装した住民たちが歌いながらダンスをして通りを練り歩くキリスト教のお祭りで、ベルギーはカーニバルが盛んです。キリスト教では、復活祭の前の40日間を四旬節と言い、食事の肉や卵を絶ちキリストの苦しみを分かちあう期間とされています。カーニバル(謝肉祭)が行われるのは、四旬節に入る前、マルディグラ(「肥沃な火曜日」の意)までの3日間で、日は毎年変わります。祭りの起源は古代ローマの「ルペルカリア祭」だったと言われ、キリスト教以前のさまざまな異教の習慣が取り入れられているそうです。カーニバルで、人々が悪魔や魔女や髑髏の仮装をするのは、「悪」を追い出すためとされています。

ベルギーの各地で行われているカーニバルの中でもユネスコの世界遺産に登録されている、バンシュ(Binche)とアールスト(Alost)の町のカーニバルが有名です。アールストでは、女装のパレードや、政治風刺の山車のパレードがあって、社会のきまりを笑い飛ばしてしまうお祭り騒ぎが知られています。バンシュでは、より伝統を重視していて、仮面とダチョウの羽の帽子を被り、派手なコスチュームを着て、鼓笛隊をともなった「ジル」(gille: 詰め物をした人形に仮装した人)のパレードや、群衆にオレンジを投げるイベントが知られています。



また、カーニバルはクノップフ(1858-1921)やアンソール(1860-1949)といったベルギーの芸術家たちに刺激を与え、とくにシュールリアリズムの画家のルネ・マグリット(1898-1967)は、仮面を被った人物の作品を描いています。ポレさんは、仮面は人々の平等のしるしでもあることを強調されていました。大人も子供も楽しめるカーニバルには、たくさんの海外の観光客が訪れているそうです。

ポレさんのお話の後には、焼き菓子と紙コップに入れた紅茶・珈琲で、会員の皆さんと楽しい歓談のひと時を過ごしました。(佐々木幸代)

私は「カーニバル」といえば、すぐにベニスが浮かんで来て、華美で装飾を凝らし、洗練された仮面と衣装を身に着けているシーンを連想していました。しかし、今回お話を聞いたベルギーの仮装は、「ジル」に象徴されるように、とても素朴で町の人たちが手作りで行っている感じが印象的でした。また、政治風刺の山車もあり、宗教色一色にそまらず、時代とともに出し物も変化していく楽しみもあるのが、興味深く思われました。(藺田章恵)

故郷から1万キロも離れた奈良で…

Jean-Noël Polet (ジャン＝ノエル・ポレ)

Merci de m'avoir laissé m'exprimer en public sur un sujet pour lequel je ne suis pas du tout spécialiste mais qui me tient à cœur. Jamais je n'aurais cru pouvoir partager mon expérience de gille à 10.000 kilomètres de chez moi! Beaucoup de gens me demandent pourquoi j'habite à Nara. C'est difficile de répondre à cette question : il n'y a pas la mer, le climat n'est pas toujours clément et les transports ne sont pas aussi pratiques qu'à Osaka, Kobe ou Kyoto. Mais il y a une chose que j'avais presque oubliée (le week-end, je reste principalement à la maison) et que j'ai redécouverte aujourd'hui : la chaleur humaine des gens de Nara est sans égal et ça n'a pas de prix.

専門家ではありませんが、私の心に深く刻まれているカーニバルについて皆さまにお話しさせていただき、ありがとうございました。故郷から1万キロも離れた所で、私自身の「ジル」の経験を分かちあえるとは、思ってもみませんでした! 私がどうして奈良に住んでいるのか、たくさんの人に訊かれますが、答えるのはむずかしいです。海はないし、気候はつねに穏やかというわけではなく、交通も大阪や神戸や京都に比べて便利ではない。でも私自身ほとんど忘れていて(週末はたいてい奈良の家で過ごしていますが)、そしてこのアラカルトで再発見したことが一つあります。奈良の人たちの人間的な暖かさは他に比べようがなく、かけがえがないということです。



2016 年度「ガイドクラブ勉強会」(9/19) 報告



ポレ先生がゲストの 9 月 5 日の「フランス・アラカルト」に続いて、私にとっては 2 回目の奈良日仏協会の行事への参加となりました。今回は、當麻寺をガイドするのにフランス語でどう説明するかという内容で、自分の望んでいたフランス語の習得と一致しており、嬉しかったです。

はじめに各参加者が、自分にゆかりのある土地の紹介をおりまぜて、フランス語で自己紹介をしました。私は高野山が好きで、中 2 の時に当時住んでいた泉南市からひとりで、婦人用自転車で 4 時間かけて 100km の道のりを走破したこと（帰りは 2 時間半！）、高 2 の冬には友人とロードバイクで往復し山上の境内の池が凍っていたこと、成人してからは車やバイクでたびたび行っていたことなどを話しました。すると講師のピエール・レニエ先生が、フランスの大学時代に日本仏教の真言宗の研究をして

いたことから、高野山には非常な興味があり、すでに何度も訪れていること、とても好きな場所で住みたいと思ったことさえあると話されました。

自分も含めて参加者の自己紹介について、レニエ先生が修正を加えながら、的確なフランス語の表現を教えてくださいましたのは、ありがたかったです。例えば、動詞の « déplacer » を「移動する」と覚えていたのですが、正しくは « se déplacer » と代名動詞であると指摘してくださり、ひとつ勉強になりました。

先生のお話では、改宗して仏教徒になったフランス人のうち、49%がチベット仏教、49%が禅宗、そして 2%が各宗派とのことで、実際にキリスト教徒が仏教徒に改宗することもあるのだと、新しい認識を持ちました。山を御神体という時、山そのものを神とするのか、山に神が住むと考えるのか、二通り解釈できるとの説明を聞いて、フランス人は論理的かつ明晰に思考するのだと実感しました。日本人は概ねこの違いについて考えない傾向があるように思うからです。當麻寺は家から近いところにあるので、何度も前は通っているのですが、訪れたことはまだ一度もありません。10 月 15 日の散策では、はじめて訪れるので楽しみです。（上野公嗣）

質疑応答の中で「曼荼羅」はフランス語になっているのですか？との質問に、レニエ先生は即座に « Oui! » とのお答え。さっそくその場で、« mandala » をプチロベール仏事典で引いてみると、1873 年に辞書に加わり、起源は「円」(cercle) を意味するサンスクリットで, Représentation géométrique et symbolique de l'univers, dans le brahmanisme et le bouddhisme. (バラモン教と仏教における、世界についての幾何学的で象徴的な表現) とありました。「mandala」というフランス語は、現在もよく用いられているとお話が興味深かったです。（浅井直子）



勉強会の前日に Mon Nara を見て参加を申し込み、急遽資料を FAX していただいた時に、「うわあ、どうしよう」と思いました。資料には當麻寺の句碑の俳句やそのフランス語訳。日本語でも難しいのに、フランス語も中途半端な私がついていけるだろうか...と。

かつて當麻寺を訪問した折にその伝承が大変興味深かった事と、9 月からボルドーに交換留学している娘のおかげで、久しぶりにフランス語に触れたということがきっかけで気軽に申し込んでしまい、行く前は不安でした。フランス語のレベルの高いメンバーの方もおられましたが、レニエ先生が日本語を交えながらフランス語を話されるので、不安が徐々に解消されていきました。勉強会は sympathique な雰囲気 で文法などの親切な解説もあり、もちろん曼荼羅や中将姫についても理解を深めることができました。フランス語の未熟さを痛感しつつも楽しく有意義な時間を過ごさせていただきました。（長子雅子）

J'ai été très heureux de pouvoir discuter avec tous de différents thèmes en lien avec le temple Taïma-dera, notamment du fameux mandala et donc aussi du conte de la princesse Chûjô-hime qui, selon la légende, l'aurait tissé en une seule nuit ! Chacun a pu participer à la discussion et l'enrichir de ses propres connaissances. Nous avons pu discuter à la fois en français et en japonais. C'était vraiment très intéressant.

(Pierre Régier)

當麻寺に関するさまざまなテーマ、とりわけよく知られた曼荼羅やそれをたった一晩で織り上げたという中将姫の物語について、参加者のみなさんとディスカッションできて、とても嬉しかったです。みんなが議論に参加し、それを各自の知見で、豊かにすることができました。同時にフランス語と日本語で議論することができて、本当にとても面白かったです。



フランス・ワインの紹介 (4)「タヴェル・ロゼ」

今回はロゼワインについてお話しさせていただきます。ロゼワインは日本ではまだまだあまりポピュラーではありませんが、フランスでは近年ロゼワインの人気の高まっています。ロゼワインは色合い的にも味合い的にも白ワインと赤ワインの中間に位置するワインで、それはその製法に由来します。

通常、ロゼワインは赤ワインと同様に黒ブドウから造られますが、赤ワインが圧搾された黒ブドウの果皮と果汁が発酵期間中定期的に攪拌され果皮に含まれている色素とタンニン分が果汁に移されることによって赤い色合いと渋みを持つようになって出来上がるのに対し、ロゼワインはその途中である程度のロゼ色の色合いになった時に果汁と果皮を分離し、その後果汁だけで発酵を続ける為にそれ以上色もタンニン分も加わらなくなり、色調も味わいもちょうど白ワインと赤ワインの間に位置するワインに仕上がります。

日本ではロワール地方のアンジュ地区で造られるやや甘口のタイプのロゼ・ダンジュが有名ですが、フランスの中で特に有名なロゼワインは、ローヌ地方南部のタヴェル村で造られるタヴェル・ロゼとプロヴァンス地方で造られるそれぞれ辛口のロゼです。こちらの方が人気が高く、プロヴァンス地方では生産量全体の9割近くをロゼワインが占めています。

ロゼワインは魚料理だけでなく肉料理にも合わせることができ、また中華料理ととてもいい相性をします。ぜひ皆さんももっと辛口のロゼワインをお試しになって下さい。

(法人会員 サン・ヴァンサン 竹中宜人)



Tavel Rosé 2015
Domaine de la
Mordorée

Recette de «Friture de sardines au shiso vert et umeboshi» 「小鰯の天ぷら青じそ梅干風味」

今回は、このところ毎号モンナラ発送作業のお手伝いをしてくださっている会員の泉悦子さんが、「小鰯の天ぷら青じそ梅干風味」を紹介してくださいました。「和風アイテムですが安い材料で豪華な感じ、しかもさっぱりしていて、我が家の定番です」とのこと。(編集部)

【材料】(2 人分) 新鮮な平子イワシ (10~12 センチ) 6~8 尾、青じそ 6~8 枚、梅干 2~3 個、小麦粉と水 (適量)、スダチ

【Ingrédients】(Pour 2 personnes) 6-8 petites sardines fraîches (de 10-12 centimètres de longueur), 6-8 feuilles de shiso vert, 2-3 umeboshi (prunes saumurées), farine et eau, sudachi



① 青じそは洗ってからよく拭く。縦半分に切って茎を取っておく。

Laver les feuilles de shiso, les essuyer légèrement, les couper en deux en long et couper les tiges.

② 梅干しは、実をこそげとって細かくきざむ、またはペースト状につぶす。

Récupérer la chair d'umeboshi et la couper finement ou l'écraser en purée.

③ イワシの頭と内臓をとり、ウロコを削ぐ。洗って水気を拭いておく。背をはなさぬように開き骨をはぎとる。(柔らかいので身がくずれないように)

Étêter et vider les sardines, les écailler, les laver et les essuyer. Les ouvrir en deux, les désarêter tout en faisant attention à ne pas couper le dos et à ne pas abîmer la chair.

④ イワシをひろげて、青じそを身の両面にのせ、梅干しを塗り、身を合わせ、元の形にして爪楊枝でとめる。はみ出た青じそは切り落とす。Étendre les sardines, y poser les feuilles de shiso, mettre de la chair d'umeboshi, joindre les deux côtés des sardines et les fixer avec des cure-dents en les reformant. Couper les feuilles de shiso qui dépassent.

⑤ ④に小麦粉と水を硬すぎない濃度に溶いた衣を漬け 180 度ぐらいの温度でからっとあげる。爪楊枝を抜いて、スダチを添えて盛り付ける。Enduire les sardines de farine delayée dans un peu d'eau et les faire frire à 180°C jusqu'à ce qu'elles deviennent croustillantes. Servir avec des sudachi coupés en deux en enlevant les cure-dents des sardines.

フランス産チーズの紹介 (2)「トム・ド・サヴォワ」(Tome de Savoie)

今回ご紹介するのは、ちょっと地味めだけど、素朴な見た目とやさしい旨みが持ち味の癒し系ハードチーズ、「トム・ド・サヴォワ」です。トム (フランス語で tome) とは、「ひとかたまりの」とか「一部分、小さな」という意味で、小さなチーズの総称のこと。トムはいろんな地域で造られ、通常は、《トム+村 (地方) の名前》がチーズ名となっています。つまり「トム・ド・サヴォワ」はサヴォワ地方の小型のチーズということです。見た目は薄茶色で、ホコリをかぶったようなゴツゴツした表皮で、硬く引き締まっています。生地は落ち着いたアイボリー色で、小さな気孔が見られます。華やかではありませんが、見るからに素朴で、昔から雪山の農家さんの家には必ずあったんだろうなと思わせる風格が…。脱脂乳で造られるため、味わいは割とさっぱりしています。ゴツゴツの外皮の下には、むっちりとした歯ごたえのある中身で、かみしめるとナッツの感じが出てきて、穏やかな旨みが広がります。そのままで良いですが、寒い山岳地帯のチーズなので、温かいお料理にも大活躍です。オーブンで焼いたり、グラタンにしたり、ジャガイモや玉葱、ベーコンなどとも相性抜群です。焼いて溶かすと風味もアップして美味しさも増します。少し肌寒くなる季節、こんな素朴なチーズはいかがでしょう。自然についたホワイトグレーのカビが、まるで雪化粧をしたサヴォワの山を想起させてくれます。

(法人会員 ビストロ ルノール 北田由佳)

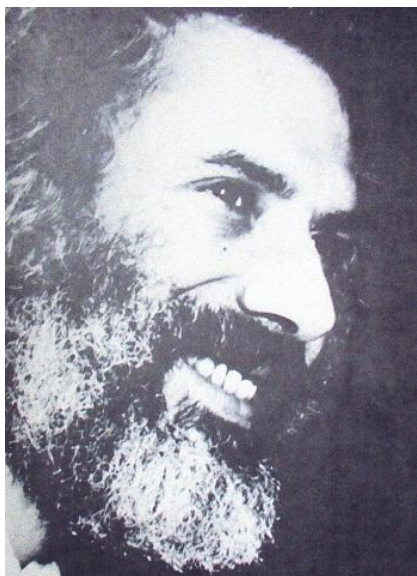


会員紹介

フランス語との出会い — Ma solitude 小原 千賀子 (おばらちかこ)

1970年代の初めごろ「バラ色の人生」という題のTVドラマがあった。私はそのテーマ曲がとても好きで、毎週チャンネルを合わせていた。川の流れる風景、柔らかなフルートの音、そして歌。ジョルジュ・ムスタキ (Georges Moustaki) の「私の孤独」—Ma solitude だった。

その言葉がフランス語であるとも知らず魅了され、画面に流れるテロップの、ジョルジュ・ムスタキの名前を頭に刻み込んだ。LP盤のレコードを買い求め、歌詞はフランス語なのだと知った。小さな仏和辞典を買ってはみたけれど、引き方さえわからない。中学生だった私はフランス語とこんなふうに出会ったのである。



1976年にムスタキが来日したとき、倉敷市民会館のコンサートへ行った(当時私は岡山に住んでいた)。コンサートが終わって、楽屋口で待っていたら、ムスタキが仲間のミュージシャンたちと一緒に現れた。思い切って英語で話しかけた。彼はまっすぐに私を見た。その深いまなざしを覚えている。最後に Please come to Japan again. と言うと I hope. という答えが返ってきた。いつかムスタキとフランス語で話そう。そう思った。

大学生になり、フランス語を勉強したけれど、生来の出無精でフランスに旅行することさえなく、いつも目の前のことに追われて暮らしているうちに、あまりにも長い年月が経ってしまった。

2013年、ムスタキの訃報を聞いたとき、かつて抱いた憧れがせつないほど鮮やかによみがえった。まるで彼の歌、Il est trop tard のように時計の針は回り、私の子ども時代ははるかに遠い。

Non, je ne suis jamais seul

Avec ma solitude

初めて聞いたフランス語の歌 Ma solitude を口ずさみながら、フランス語に出会った頃の幼い私を思い出している。

「トリセツ」で難儀したフランス語 大内 隆一 (おおうち りゅういち)

浅井先生の『失われた時を求めて』の読書会・講読会がスタートすることを知り、入会致しました。定年後『源氏物語』『ドン・キホーテ』などを初めて読破できましたが、この好機にプルーストの大長編にトライすることになりました。『源氏物語』の「須磨帰」のように、これまで私は「コンブレ」を一步も出られずでしたが、読書会では分担が決められるお蔭で、先月ついに、スワンと共にパリに出ることになりました。読み始めて意外だったのは、プルーストはユーモアのセンスも抜群という印象で、愉しく読み進んでいます。

大学では単位を取っただけのフランス語が、仕事で必要になった時がありました。パソコンが登場したころ企業の開発部門にいました。プログラミングや外部接続方法を取扱説明書(略して「トリセツ」)で解説するのですが、その英独仏語訳の確認が一苦勞だったのです。日本では、新語に対してそのままカタカナ語にしてしまうことも多いですが、仏訳を見ると従来の単語に新しい意味を割り当てているように見え、自国語を大切にする実例をみた気がしました。そうした経験が老後の楽しみにもつながりました。

日本には仏文学のすぐれた翻訳や著作が多く、私はとくに辰野隆の随筆類が好きで、詩や小説だけでなく鈴木三重吉との酒席での喧嘩等々面白い話の宝庫です。『失われた時を求めて』が刊行されつつあった1918年4月の時評(辰野隆「信天翁の目玉」)には、ジェラルド・ドウヴィル夫人の「井戸」という詩が紹介されています。「古井戸の中を覗くと其処に桑の実が赤く熟し、歯朶が水に濡れ、草や苔が静に眠っている。其処に夜がある。其の夜の鏡に私の昔の夢が映り永く忘れていた私自身が映る。私の子供の時の可愛い目が笑っている。私の若かった時が甦って来る。無垢と清澄の昔が浮んで来る。」・・・プルーストの小説空間に呼応するような美しい小品に思えます。

音楽も趣味で、市民オーケストラや室内楽でヴィオラやクラリネットを続けてきました。日仏協会の音楽イベントなどにも参加させて頂ければ嬉しいです。



フランス語で読む日本古典：『源氏物語』第三十八帖「鈴虫」より

虫の鳴き声を聴き分けその音色に興じたり思いを寄せて、秋の日を過ごしていた平安貴族の語らいに耳を傾けてみましょう。
 《本当に虫の声がいろいろ聞こえている中で、鈴虫が声を振り立てて鳴いているところは、華やかでおもしろい趣である。
 (源氏は)「秋の虫の声はどれも素晴らしい中で、松虫が特に優れているとおっしゃって、中宮が、遠い野原を分けて、特別にわざわざ探して来てはお放ちになったのですが、はっきりと声を鳴き伝えている松虫は少ないようです。名前とは違って、きつと寿命の短い虫なのでしょう。思う存分に誰も聞かない山奥や遠い野の松原で声を惜しまず鳴くのも、まことに打ち解けぬ心をもった虫なのでした。鈴虫の方は、親しみやすくにぎやかに鳴くのがいじらしいなどとおっしゃるので、(女三宮は)「おほかたの秋をば憂しと知りしをふり捨てがたき鈴虫の声 (おおかた秋という季節はつらいものと思っておりましたが、やはりその秋を振り捨てることができそうにもないほど美しい鈴虫の声でございます)」と、しのびやかにおっしゃる》



酒井抱一「紅葉に鈴虫」

—D'entre tous les insectes qui donnaient de la voix, le cri du grillon-grelot se détachait, vif et plaisant.

—L'Impératrice disait qu'elle aimait partiellement le chant de tous les insectes de l'automne, mais que le grillon des pins cependant l'emportait sur les autres, et elle en faisait rechercher par les landes lointaines, qu'elle relâchait en son jardin ; il en était peu toutefois qui chantassent assez longtemps pour que l'on pût les distinguer clairement. Contrairement à ce que laisse entendre son nom, ce doit être en effet un insecte dont la vie est précaire. De plus, il ne chante à cœur joie qu'au fond des montagnes ou dans les pinèdes de campagnes écartées, où l'homme ne les entend, car c'est un insecte qui garde ses distances. Le grillon-grelot par contre est d'humeur facile et enjouée, ce qui fait son charme, dit-il, et la Princesse : « De toutes saisons automne je le sais bien est la plus cruelle mais bon

gré mal gré j'écoute le chant du grillon-grelot » murmura-t-elle, (...)

(traduit par René Sieffert)

第42回 奈良日仏協会シネクラブ例会 (10/23) 案内 ★10月23日(日)13:30~17:00

★奈良市西部公民館5階第4講座室 ★プログラム:アラン・レネ監督『風にそよぐ草』(Les Herbes folles, 2009年, 104分)

★参加費:会員無料、一般300円 ★飲み会:例会終了後「味楽座」にて ★問合わせ:Nasai206@gmail.com (予約不要)

★靴を買いにパリ行ったら、ひったくりでバッグをとられてしまったマルグリット、そこから「思いもかけなかったこと」が...

原作はクリスチャン・ガイの小説『風にそよぐ草』(L'Incident, 1996年)。映画も小説もとても軽妙で斬新な作品です。



《2016年度第4回理事会報告》...事務局

日時:2016年9月29日(木)15:00~16:30

場所:放送大学奈良学習センターZ308室

出席者:三野、井田、濱、中浦、藤村、浅井、中辻、三木

議題1. 2016年度9月の暫定会員:100件(新入会員2)、議題2. 7/21 理事会後の活動:(8/5) 奈良市とベルサイユ市の30周年事業協力の打ち合わせ、(9/5) 第132回フランスアラカルト「ベルギー社会の仮面とカーニバル」、(9/24) ガイドクラブ勉強会、議題3. 今後の行事:(10/15) ガイドクラブ當麻寺散策、(10/14~16) ベルサイユ市長夫妻と副市長の奈良訪問の通訳、(10/23) 第42回日仏シネクラブ例会『風にそよぐ草』、(11/23) 秋の教養講座、中浦理事の「ワイン」をテーマとする講演、ピストロ・プティ・パリにて懇親会、議題4. Mon Nara、議題5. 連絡事項:次回理事会11月17日(木)15:00~16:30放送大学奈良学習センターZ308室にて。理事会後に教養講座の予行演習を行う。

会員通信

★11月1日(火)19:00 「三木康子ピアノリサイタル」いずみホールにて、連絡先 090-9982-5863 (三木)

★11月5~13日、木造校舎現代美術館 WSMA、宇陀市カエデの郷「ひらら」、大作約10点予定。連絡先 swkb92350@gaia.eonet.ne.jp (南城)

★11月12日(土)13:00「梨里香“ル・ベンケイ”デジュネコンサート」レストラン Le BENKEIにて、連絡先 090-9614-6477 (中辻)

★11月19日(土)13:00「楽友の響 vol.1」秋篠音楽堂にて、10人のヴァイオリニスト演奏、岩佐直子出演、連絡先 090-5042-3659 (岩佐)

★11月20日(日)・27日(日)両日とも14:30「ミュージック・パフォーマンス〜人形の夢〜」、要予約、連絡先 090-8751-6408 (藤村)

★12月4日(日)15:00「奈良モーツァルト会定例会コンサート&納会」ろくさろんにて、連絡先 090-2193-3295 (上田)



par Sôta

編集後記 ★ 蕪村は今年生誕300周年で申年生まれ、蕪村よりも72歳年上の芭蕉もやはり申年とのこと。今年の新生児も含めて申年の人は、俳句との相性がよさそうです。★ 秋風に誘われて300周年の蕪村に敬意を表して句集を繙くと、「白菊」(chrysanthème blanc)を詠んだ句が印象に残りました。★「しらぎくやかゝるめで度き色はなくて」(Ah chrysanthème blanc / aucune autre couleur que la vôtre / n'est plus heureuse) ★ 蕪村は画家でもあり、色や風景に対する独特の感性があるようです。★ 俳句は今や世界中に広がっていますが、フランスでは季語や五七五のリズムにはこだわらず、三行に分けて書く短詩「haïku」として親しまれています。1905年にはすでに作られていたというのですから、100年以上の歴史があることになります。★ 申年生まれではありませんが、わたしもこの秋フランス語で haïku を作ってみたいくなりました。(N. Asai)

◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。

◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。次号は**11月30日**が原稿締切日です。

Mon Nara

sept-oct 2016 **9-10月**合併号 numéro277

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP: http://www.afjn.jp E-mail: nara.afj@gmail.com FAX: 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町19 マリアテラスビル2F 野菜ダイニング菜宴[郵便物のみ] 発行責任者: 三野博司